

うっしっしいー情報2022

12月市



豊岡農業改良普及センター

12月14日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が82万2千円、雌が76万6千円でした。

普及センター調べ（税込価格）
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤佐	7	1.037	848,571	5	0.875	706,200	12	789,250
丹波篠山	7	0.906	868,686	1	0.780	790,900	8	858,963
丹波	29	0.928	789,952	13	0.844	724,138	42	769,581
朝来	12	0.999	819,592	10	0.865	756,140	22	790,750
播磨	22	0.975	817,050	13	0.879	743,685	35	789,800
美方郡	74	0.978	822,755	71	0.850	774,090	145	798,926
豊岡	18	0.911	763,339	19	0.863	801,553	37	782,962
養父	38	0.940	871,721	14	0.809	803,550	52	853,367
摂津・神戸	11	0.921	790,900	12	0.841	718,392	23	753,070
県北C	-	-	-	1	0.835	707,300	1	707,300
市場全体	218	0.957	821,967	159	0.850	765,614	377	798,200

12月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	丸若土井	34	0.960	876,376	30	0.850	795,740	64	838,578
2	芳悠土井	12	1.023	889,900	6	0.826	735,533	18	838,444
3	丸春土井	15	0.926	822,873	4	0.941	846,175	19	827,779
4	藤彦土井	14	0.977	827,043	10	0.887	788,590	24	811,021
5	山伸土井	20	0.984	822,635	17	0.893	780,806	37	803,416
6	照和土井	13	1.026	819,838	12	0.885	776,325	25	798,952
	総計	218	0.957	821,967	159	0.850	765,614	377	798,200
7	丸池土井	25	0.934	841,016	19	0.828	733,237	44	794,475
8	照忠土井	5	1.038	842,380	10	0.831	764,060	15	790,167
9	忠味土井	42	0.931	791,633	23	0.823	776,122	65	786,145

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	丸若土井	A	A++	A++	A	A++	A+ → A++
2	芳悠土井	A	B	B	B	B	A++ → A+
3	丸春土井	C	A → B	C	B	A → B	A++
4	藤彦土井	A++	A+	B → C	D	D	A+
5	山伸土井	A+	A++	C	A+	A+	A
6	照和土井	A+	A+ → A	A → B	A	A	A+ → A
7	丸池土井	C → D	A++	D	B → A	A++	A++
8	照忠土井	C	A++	A	A+	A++	A
9	忠味土井	B	A+	A	B	A+	A+



バックナンバー
はこちらから

北部農業技術センター提供 (育種価評価は令和4年11月現在)

子牛の感染症を防ぐ環境作りを！

気温が低下し、寒さの厳しい冬が始まります。毎年、この季節になると、消化器症状や呼吸器症状を示す子牛が増えることに悩まれる方もいるのではないのでしょうか。子牛が症状を引き起こす原因は、「免疫機能の低下」「病原体となる病原微生物の増加」「飼養環境の悪化」の3つです。この原因のうちいずれかを無くすことで、疾病の発症は抑えられます。

7月号では、成牛に比べて子牛は免疫機能が未熟であり感染症を発症しやすく、免疫機能を向上するため確実に初乳摂取させることが重要とお伝えしました。今回は、子牛の感染症発症を予防するための“衛生的な環境作り”について考えていきましょう。

1 子牛(出生～哺乳期)の疾病原因について

出生～哺乳期の消化器症状および下痢症状の原因は、感染性のものと非感染性のものがあります。感染性は様々な種類の細菌、ウイルス、原虫等が原因であり、単体だけではなく混合的に感染することも報告されています(図1)。非感染性は、下痢症状では寒さによるストレスや消化器機能の未熟による消化不良、呼吸器症状では換気不良による牛舎内アンモニアガス濃度の上昇が原因として挙げられます。

出生～哺乳期の牛は体が弱く、特に下痢や肺炎による死産率が高い時期です。感染性の下痢症状と、換気不良による肺炎の予防方法について確認していきます。

図1 出生～哺乳期にかかりやすい感染性疾患の原因

下痢症状
細菌……………サルモネラ症、大腸症など
ウイルス……………牛コロナウイルス症など
原虫……………コクシジウム症、クロストリジウム症など
呼吸器症状
マイコプラズマ…マイコプラズマ感染症など

2 感染性下痢の予防

感染性疾患の予防は、牛舎内に病原体を持ち込まない・牛舎内の病原体数を減らすことが重要です。病原体は車や靴に付着した土・ふんや、汚染された場所に触れた手指から牛舎内に侵入する場合があります。そのため、牛舎に出入りする人や車の消毒をおこない、新たな病原体の持ち込みを防ぎましょう。また、牛舎内の病原体数を減らすことで、感染症に罹るリスクを下げることができます。子牛出荷後など牛房が空いた時に一斉に消毒することで、より高い効果を得ることができます。

2-1 牛舎に出入りする人、車の消毒

① 手指の消毒

手指は様々なものに触れるため、沢山の微生物が付着しています。牛舎に入る際は、アルコール等で手指の消毒をおこないましょう。また、牛に触れる作業を行うとき、ゴム手袋を装着するのも効果的です。

② 靴の消毒(踏込み槽)

牛舎の出入り時に靴の裏に付着した病原体を消毒するため、踏込み槽を設置しましょう。牛舎から出る際にも、病原体の持ち出しを防ぐため、靴に付着したふん等の汚れを落とす上で踏込みましょう。また、踏込み槽内の消毒薬の汚れを確認し、定期的に交換しましょう。

③ 車の消毒

飼料運搬車など外部から来る車はタイヤが汚染されている可能性があります。車が敷地内に入る前に、しっかりタイヤを消毒しましょう。タイヤへの消毒薬散布や、通り道に消石灰を帯状に散布する方法などが有効です。

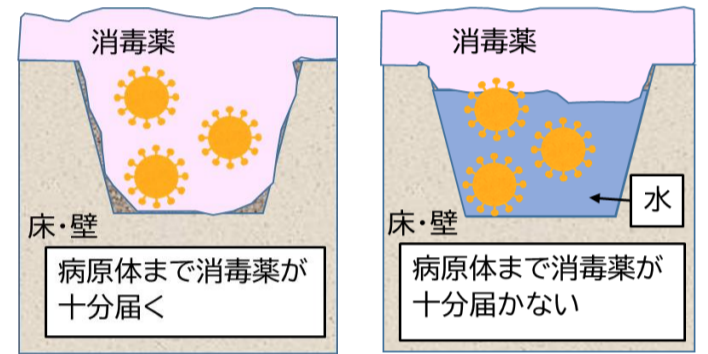


図1 十分乾燥した隙間

図2 水分が残る隙間

2-2 牛舎内の消毒

消毒で牛舎へ持ち込む病原体を減らすとともに、入ってきた病原体が増えないようにすることが重要です。消毒の効果は一般的に2週間ほど続くと言われています。病原体が増殖しにくい環境を保つため、以下の手順を参考に定期的に消毒しましょう。

① 除ふん・水洗・乾燥

牛舎内を消毒する時に、家畜のふん尿・ホコリ・クモの巣等が存在すると、効果が低下します。

薬剤をしっかり効かせるため、清掃し、その後高圧洗浄機等により牛舎内に残った汚れを水で洗い流しましょう。一方で、水洗後の牛床や牛舎の壁に水分が残っていると、消毒薬が病原体まで届かないことがあります(図1、2)。効果的に消毒するため、最低でも丸一日おいて十分に乾燥させましょう。

② 消毒薬

目的に合った薬を使い、決められた濃度で消毒を行なうことが大切です。牛舎消毒には、逆性石鹼(パコマ、クリアキル等)やアルデヒド系(グルタグリーン等)が適しているとされています。なお、異なる薬を同じ場所に使う場合は、先に使用した薬が乾燥してからにしましょう。薬剤が混ざると消毒効果が思うように得られないことがあります。

③ 石灰塗布 ※必要に応じて

消毒後、石灰を塗布し病原体を殺菌消毒することで、効果が更に高まります。石灰の種類は問いませんが、消石灰やドロマイト石灰は発熱せず扱いやすいです。ブラシやハケ等で、壁や柵も忘れず塗りましょう(図3)。



図3 石灰塗布した牛房 ※写真提供: 朝来家畜保健衛生所

3 肺炎(呼吸器疾患)の対策

牛舎の換気が不十分だと、ふん尿から発生するアンモニアにより呼吸器が損傷し肺炎につながる場合があります。子牛の頭の位置までしゃがんだ時に目がチカチカするのは、アンモニアが多いサインです。

アンモニアによる呼吸器障害を防ぐため、冬の寒い時期でも、牛舎内の空気が1時間に4回ほど入れ換わるよう換気をしましょう(表2)。子牛に新鮮な空気を与えることで、ストレス軽減や、免疫力向上につながります。哺乳子牛の適温域は13～25℃であり、5℃以下の低温になると活動に影響が出るため、換気と寒さ対策を両立させる必要があります(表3)。

換気を行う場合は、天井付近にある牛舎の窓や扉を開け、空気の入り口・出口を作りましょう。その際、風が直接子牛に当たらないよう注意が必要です。換気扇がある場合は、常時ゆっくり回して換気をおこないましょう。加えて子牛の体温が奪われないよう、敷料を乾燥した状態に保っておくことも大切です。

表2 換気回数(空気の入れ換え量)の目安

	夏季	冬季
換気回数	60回/時	4回/時

表3 肉用牛の適温域と生産環境限界温度

	適温域(℃)	生産環境限界温度(℃)	
		低温	高温
哺乳子牛	13～25	5	32
繁殖牛	10～15	-10	30
肥育牛	15～25	5	30

※生産環境限界温度：この温度より上がる(下がる)と牛の活動に影響が出る温度

まとめ

- 1 出生～哺乳期の子牛は体が弱く、下痢や肺炎が死産の原因になっています。
- 2 消毒および清掃により牛舎内の病原体を減らし、感染性の下痢を防ぎましょう。
- 3 冬も1時間に4回以上空気を入れ換え、肺炎にかかりにくい環境を作りましょう。